

子どもとの関わり方の一助となれる言葉を発信していきます。

「アドボカシー」子どもの声を聴く

子どもの声を聞き、意見を尊重する「子どもアドボカシー」。

子どもの周りには、様々な立場の人があります。親、先生、地域の方々、そして大切な友達も…。子どもが権利の主体として、大切にしていける社会の実現が今、始まっています。私たちは、声なき声を聴いているでしょうか…。

すべての子の「心の声」を理解できる大人が増えること。何よりの安全安心な事です。

自分は何をしたいのか、何が嫌なのか、わからない子に

なぜなら、自分の意志で動いた経験がないから。自分の気持ちを訴えた経験も乏しく、そもそも訴えようとする意欲も持てなくなりがちです。

好きなことに打ち込めるような落ち着きが持てない子に

親がいろいろと準備してくれたものをこなすのに精一杯。時間が経つのも忘れるほど、何かに没頭する楽しい時間が奪われているからです。

親の顔色をうかがう子に

親の期待通りになれば子どもをほめ、期待に応えられないと親はがっかり。すると、幼いながらに親の反応に一喜一憂するようになり、心のエネルギーが失われます。

気分屋で情緒不安定な子に

常に自分のことを置き去りにされていると、自分の行動を自己管理するのが困難に。思い通りにならないのを人のせいにしてたり、先の見えないことに戻込みしたりしがちです。

一見ききわけの良い子、困っていないのではなく、言い出せない背景が…。

大人の期待に沿うこと、本当の自分の気持ちは…。

話したくない気持ちも尊重される安心安全な関係性。

子どもの声を聞くために、まずは子どもが安心して声を上げられる環境をつ

くることが大切です。いくら大人が子どもの声を聞こうとしても、信頼していない

大人には本音を話さないでしょう。そのため、日頃から子どもとの信頼関係を築くように努めな

ければなりません。信頼関係を築くというと難しく聞こえるかもしれませんが、約束を守る、話を

最後まで聞くなど、人とコミュニケーションをとる上で極めて基本的かつ大切なことを意識するだ

けで変わってきます。子どもの心の声の“代弁”出来ますように…。

